

第3期下田市子ども・子育て支援事業計画（案）に対するパブリック・コメントの実施結果

件 名	第3期下田市子ども・子育て支援事業計画（案）について
募 集 期 間	令和7年1月21日（火）から令和7年2月19日（水）まで
担 当 課	学校教育課

・提出方法及び件数

郵 送	0 件
F A X	0 件
電子メール	2 件
持 参	1 件
計	3 件

・公 表 日 令和7年3月19日

・公表の方法 市ホームページへの掲載
総務課情報公開コーナーでの閲覧

第3期下田市子ども・子育て支援事業計画（案）に対するパブリック・コメント回答一覧

番号	ご意見	回答
I	P62 中学校就学準備給付金 3万円の給付は実際にかかる金額と隔たりがあり、入学準備が大変という声を多く聴く。市がやることは難しいと思うが、バザー等で制服等を安く手に入れられるとか、学校指定製品をもう少し安価な物でも可とするなどの方法を考えて欲しい。	制服等のリサイクルは、現在も、知り合いからの譲り受けのような方法で、一部やりとりがあるものと考えます。
	P70・P74 グローカル CITY プロジェクト事業、参加型体験事業の推進 子どもたちが地域を知らなすぎる。好きなこと、興味のあることだけしか参加しないため、年間を通した講座に体験させることはできないか。地域を知り、好きになるためには、学校教育以外に社会教育で意図的計画的に体験させていくことが必要と思う。いろいろな人材がいて、子どもたちにいろいろな体験をさせるチャンスがたくさんある。「つながり」を活用して、子どもたちの体験活動の充実に望む。	ご指摘のとおり、子どもたちが地域を知り、好きになる取組は重要であり、様々な人や団体、組織との「つながり」を活用し、下田の豊かな自然、歴史、文化等を感じる体験活動の充実に努めます。
	P71 コミュニティ・スクール コミュニティ・スクールは本当に機能しているのか。土日休日など学校施設を開放して民間団体に貸し出すなど考えたらいかがか。本当のコミュニティ・スクールとなるためには、学校と地域住民が双方向で利用協力し合うことが必要と思う。	コミュニティ・スクールは、令和5年度から下田中学校で、また、今年度から市内7小学校での活動が開始したばかりです。 ご指摘のとおり、地域人材との交流は、とても重要であり、引き続き活動の充実に努めます。

	P72 まちじゅう図書館、移動図書館 今のまちじゅう図書館は、大人対象で児童書が置いている場所が1か所であり、また、貸出しができず、その場で読むことしかできない。 「下田こども図書館」の狙いは市と同じなので、設置場所等にもう少し協力していただいてもよいのでは。	現在、「下田市役所河内庁舎まち図書館」の他、自由書棚（寄贈本を中心とした貸出も返却も自由）のある「あおのおあそびまち図書館」、「WITH A TREE まち図書館」に、児童書が設置されています。 民間の活動とも連携し、自由書棚や児童書の設置等について検討してまいります。
	全体を通して 日本の子どもたちの幸福度は低いと言われている。観光も重要だが、下田市の未来を託す子どもたちに対し、もう少し予算面も含め考えていってもよいのでは。	ふるさと応援寄附金等の有効活用を検討し、国の提唱する「こどもまんなか社会」の実現を目指してまいります。
2	今後、少子化は今以上に進行すると思う。 子ども対象のイベントや子育て支援センター、ママサークルなどの広域での連携活動、市町合同運営など検討してもらえないか。	ご指摘のとおり、今後の少子化の進行を見据えた広域での連携は重要です。 民間レベルでは、広域での連携を始めていただいております。計画案P60には、子育てサークルや子育てボランティア間での連携、大きなネットワークの構築・強化について記載しております。 子育て支援センター間の連携等、行政間の連携については、今後、検討してまいります。
3	P40 「まどが浜に遊具ができて・・・便利」と書かれている。 休日には多くのファミリーで賑わい、以前より公園が明るくなり多くの笑顔があふれている。小さな子供が遊具の下側から登ってしまい、頂上が渋滞し危ない場面がよくある。幼児用の滑り台等を設置し、子どもたちを分散させることが必要と思う。 また、健康遊具やアスレチックを設置し、ウォーキングと足湯を利用し、下田独自の健康プログラムを作る福祉事業として、健康寿命を延ばすことを推進して欲しい。	まどが浜海遊公園の遊具の件は、いただいたご意見を関係者とも共有し、事故防止に努めます。 健康プログラムの件につきましても、他計画等の今後の参考とさせていただきます。

P54、P75 イベントへの参加促進 有志でイベントを開催し、市民の憩いの場を作るために、子どもたちの参加型発表会、高校生ボランティア、地域おこし協力隊に協力を呼びかけ、補助金なしで開催した。 個々に能力を持った方が、「下田のために何かしたい!」と思っても、資金が乏しくチャンスがなかなかないため「イベント協賛金」の設立をお願いしたい。 イベントが多く開催されることで、市民の満足度が高まると考えているが、市主催の行事だけでは市職員の負担になり、新しい試みもできないため、イベントの内容と下田市に対する効果を審査し、規模の大きさに応じて「数万円～」補助するシステムがあれば、発信力を持った人が盛り上げてくれる。	多くの方に、アイデアや発信力等、様々な分野でアドバイスやご協力をいただきながら、子どもたちが下田に生まれ育ち良かったと思える体験活動の醸成に努めてまいります。 「イベント協賛金」については、直ちに制度化することはできませんが、今後の参考とさせていただきます。
P6 出生率 今は情報時代。他市では SNS 等で、「住みやすい、子育てしやすい」を積極的に PR している。ランキングも出ていて、誰でも比べることができる。 出生祝金が、多子でも同額の市の現状は、近隣の町と比べ古いと思う。第2子目以降の祝い金を上げてほしい。	ご指摘のとおり、特に若い方を中心に、SNS 等の情報を参考にして行動する方は多く、魅力ある発信や、積極的な PR は重要です。直ちに実施することはできませんが、「出産祝い金の多子増額」については、今後の参考とさせていただきます。
P38 いじめ防止 解決策が見つからないいじめだが、いじめ撲滅運動をしている大仁田厚さんのチラシをいただいたので、学校教育施設や飲食店に貼ってもらうことで「啓発」、「気づき」に繋がると思う。	ご依頼いただければ、各小中学校には、教育委員会を通じて掲示依頼を行うことができます。